

参加者: 23名

第五十回「本郷ふじやま古民家歴史部会」歴史探訪

「東海道の歴史を語る追加」

作成平成21年6月古民家歴史部会員 原本

「IV」戸塚宿から藤沢宿へ 自宅発 8:02 図書館 8:09 警察前バス発 8:12 大船駅前 8:22
電車発 8:27 戸塚駅 8:32
平成22年7月1日(木) 集合; JR戸塚駅改札口(橋上) 9時50分厳守 同刻出発します。

出発 9:12 バス72 (他に地下鉄改札有り間違わないで下さい)
行程; 戸塚駅発バス移動→バス停「西横浜国際病院前」→お軽勘平の碑→松並木と一里塚→大運寺→ウ
イトリッヒの森→龍長院→八坂大神→影取池跡→バス停「鉄砲宿」12時頃解散
帰路 バス→原宿経由大船 又はバス→藤沢駅経由大船。

1・戸塚宿

江戸日本橋から京都三条大橋まで126里半、品川に始まって大津に至る東海道宿場が置かれたのは慶長6年(1601)のこと。戸塚宿が出来たのはそれから3年、今年で400周年を経過しています。

戸塚宿が設置される前、

保土ヶ谷宿と藤沢宿の距離は4里と長く、道も険しかった。その為、人馬の往来は難儀になり、物資の運搬に支障が出た為、時の土地有力者(沢辺宗三が主唱者)が幕府に訴願し、設置(47番目)に至ったと言われています。

日本橋から戸塚までは10里18町(約42キロ)健康な男子の1日の歩行距離が十里と言われる時代、早朝日本橋を出発し最初の宿泊場所が戸塚宿、大山道・鎌倉往還の分岐点でもあり、賑わいを見せていたという。

規模(正徳元年,江戸時代=1771)宿高2326石622合

家数613・人口総数2906(男1397・女1509)・旅籠屋75・本陣2・脇本陣3。

2・大坂・庚申塔群

江戸時代は急な坂道最初の坂一番坂(登り一丁余,約60間109m・1/10登り勾配と平場1m)の坂二番坂(登り30間,約55m・1/12登り勾配)と呼んでいました。広重の行書東海道の戸塚は「逢坂より宿をみる図」となっており、初版では、駕籠あとの旅の男と坂を上がってくる僧侶の姿もか

れている。

庚申塔群；庚申塔（延宝5，6年＝1677，78・元禄4，6，8年＝1691，93，95・正徳4年＝1714・享保3年＝1718・寛保3年＝1743）・馬頭観音碑（文政元年1818）。

3・第六天（天神第六代の面足能命^{オモソノミコト}，惶根能命^{オホネノミコト}の二柱）

境内に産魂祠（天保10年＝1839）・藤行翁之碑（嘉永7年＝1854）。

4・上方見附

東側大坂下バス停の所に高さ60cm，幅105cm，長さ150cmの凝灰岩（ギョウカバシ）切石の石積に囲まれた中に松が植えられていた。反対側にも掲示板の裏に石積が残っている。東側は壊され表示板のみ。

5・お軽・勘平の碑

仮名手本忠臣蔵（カゲテホンチュウシンゲウ）で有名な浪士早野勘平（赤尾浪士の一人菅野三平に擬すお軽の夫で、誤って舅^{オヤジ}を殺したと思い自害する）と腰元おかる（山崎の与市兵衛の娘，勘平の妻，夫の用金達のため，身を祇園の一力楼に売る。由良之助の密書を見た事から兄平右衛門に殺される）との恋の逃避行に戸塚の山中を選ぶ。戯曲では有るが，戸塚の地名が出る。

仮名手本忠臣蔵；浄瑠璃の1つ。並木宗補他合作の時代物。1748（寛政元）竹本座初演。赤尾浪四十七士が敵討（カゲウチ）の顛末（テマツ）を，時代を室町期にとり，高師直（カウシナカ，～1351・忠臣蔵では吉良上野介擬する）を塩谷判官（シヤノハンカン・浅野長矩^{カガリ}，内匠頭に擬する・太平記出雲守護塩谷高貞の名を借りたもの）の臣大星野由良之助らが討つ事に脚色したもの。忠臣蔵と略称。全11段より成る。技師劇中の代表作。後に歌舞伎化。

6・吹上の一里塚・松並木（江戸から11番目・民家の一隅の立て看板）

古東海道は足柄坂→相模中央→都筑→橘→下総へと通じていた。天正18年（1590）徳川家康の江戸入りの際，道を南に求め，初めて戸塚を通過したのが今の東海道と言う。慶長9年（1604）戸塚宿置かれる。徳川3大將軍家光の時，早（日照り）が続き，歩行者に死者が続出，幕府は土井利勝に命じ歩行者のために東海道に松を植えさせた。然し，何処までも松並木では退屈するとであろうとの，土井利勝の意見で，一里ごとに一里塚（目立つ様，クヌギ，樺，等植えられた・5間四方高さ1丈基本規模）が築かれたと言う。戸塚区には，品濃町・吉田町・原宿にある。

原宿 豊島 1034

7・浅間神社 1035-36

境内に庚申塔（貞享3年，1686・元禄6年，1693・享保12年，1727・安政5年，1858）・富士講碑（延宝8年，1680）。

8・大運寺 1040~42

（浄土宗・唐沢山・本尊，阿弥陀如来立像南北朝時代作・寺宝，一心經一卷，雷獸肉附毛地藏画，地藏石像空海作・境内に観音堂，庚申堂，江戸時代作青面金剛と三猿）

慶長元年（1596）に建立。開山は誓誉上人，宗祖法然上人のお念仏を継承する寺。新本堂平成10年完成。大銀杏樹齡400年，周囲4.5m市指定名木古木・徳本上人名号角柱碑・地藏立像（いぼ地藏）・慶安2年（1649）三代将軍家光の時，三石五斗の御朱印賜る。境内にあった大正池は，今は団地内になっている。

○大運寺への歩道橋下空き地（国道下り線）庚申塔群；鎌倉道、大山道、ほしのや道道標兼出羽三山碑（文化8年1811）

庚申塔（造立不明）・馬頭観音碑（天保6年1835・15年1844・明治7年1874）・供養碑（大正3年1914）。

9・ウイトリッヒの森 1057~1113
（伝説小栗判官にでる照手姫がけしかけられた荒馬「鬼鹿毛」が住んでいたと言う鬼鹿毛山にガヤがあった処と言う・昭和62年5月30日開園・3.12・機械技師）

スイス人アーノルド・ウイトリッヒ氏は故郷の風景に似ていることから，この森を愛したが昭和58年に亡くなると，妻の津田ひ亭さんが，横浜市に寄贈されたもの。貴重な植物，野鳥・昆虫が棲んでいる森・散歩道全長約900m。竹林・エゴノキ（コブのある木）など。

10・龍長院 1133~35

（曹洞宗・天王山・本尊，釈迦牟尼如来・寺宝，地藏菩薩，伝弘法大師作，不動明王，知證大師作，他

3点）・人面魚が池に泳いでいたと言うが？

延徳年間（1489～92），相模入道が西林龍瀧庵を創立。開山は堅心。その後慶安元年（1648）永井丹波白元が此の地を平定した際，鎮護国家の祈願所として堂宇を改築龍長院と改称，なお鎮守不動堂を建立，地證大師作の永井家伝来の守護仏不動像を安置したと言う。関東大震災にて消失したが昭和41年現本堂を再建。銀杏の大木と池がある。池には小さな滝が流れ込んでおり，人の顔によく似た鯉の人面魚が泳いでいる。庚申塔（文政8年，1825）・不動明王（昭和8年）・国道1号線影取第1歩

第50回行程案内図

